

総会シンポジウム「進行シナリオ」

■開会：13:00～ 終了：15:50

■企画の趣旨・内容

「これがすべてを変える——資本主義 vs 気候変動」(ナオミ・クライン著)の問いかけに応える視点で企画を検討。いま茶の間には電事連のテレビCM(石坂浩二さん登場の「原発・火力・再エネ」のエネルギーミックスがベストと宣伝)が流されている。政府(官邸・経済産業省)は審議会(資源エネルギー審議会「基本政策分科会」)を開き、「エネルギー基本計画」見直しの審議をすすめている。このなかで外務省では有識者懇談会「提言」、環境省は中央環境審議会の「長期ビジョン」等が出されている。また国会には「原発ゼロ基本法案」が野党四党で共同提出されている。

世界の流れは「パリ協定」で決まった。化石燃料ゼロ・再生可能エネルギーへ大きく動いているときに、日本のエネルギー政策は逆行。いままさに「エネルギー基本計画の見直しと温暖化(気候変動)対策を一体的に考える」ときである。ここに焦点をあてシンポジウムを開催する。

1. コディネーター：橋本事務局長

JNEP結成最初の取り組みが1991年10月の「水俣病・大気汚染被害者救済を求める環境庁包囲の行動」であり、「ブラジル・リオの地球環境サミットにむけた集会」であった。1992年6月のリオには高尾山の天狗マーク入りのTシャツ姿の代表団(100名余)が参加。以来、1997年のCOP3(京都)では現地に臨時事務所を開設、市内パレードには高尾山天狗みこしを繰り出し、京都新聞には写真入りで報道された。そして私自身はCOP15(コペンハーゲン)～COP21(パリ)のJNEP派遣代表団長を務め、歴史的な「パリ協定」合意を見届けることができた。それだけに「パリ協定」実行には格別の思いがあり、その責任も感じながら進行の役割をはたしたい。

2. パネラーの報告(問題提起)

◇明日香寿川さん(東北大学教授、専門は環境・エネルギー政策論)

最新の著書「脱原発・温暖化の経済学」の「結び」では、世界の流れに逆行する日本政府(原子力ムラ・電事連等産業界の一部の意向)のとっているエネルギー政策を変える、原発・石炭から再エネへの転換は急速にすすんでいる、「原発・温暖化・経済」の三課題・同時達成をめざすことを基本的な問題意識として述べている。

★そのシナリオと政策を話してもらう。

◇早川光俊さん（弁護士）

「なくせ公害、守ろう地球環境」の運動に当初から関わり、いまも大気汚染・ミナマタ弁護団として活躍。CASAを立ち上げ「地球サミット」以来、一貫して温暖化対策を求める運動の先頭に立ち、毎回COPに参加。環境NGOとして国際的舞台上で活動し、世界の流れを深く熟知している。

★「パリ協定」合意の歴史的な意義と今後の課題、とりわけ日本の責務、COP24にむけて何をすべきか！を話してもらう。

◇歌川 学さん（産業技術総合研究所主任研究員）

ご自身の主要な研究テーマ「省エネ」を中心に、世界各国（とくにドイツ）のエネルギー政策を調査・研究され、気候ネット・CASA等の政策提言にも協力している。

「地球サミット」には国公労連代表として参加。その後、公害・地球懇（JNEP）の活動に一貫して協力し、学習会の講師や情報提供・政策提言の役割をはたしてくれる。

★省エネ推進及び地域密着型の再エネ拡大の政策、ドイツの事例紹介を含め「電力改革」（発送電分離）を話してもらう。

<休憩>

○「質問用紙」を休憩時間中に集め、パネラーに回答コメントしてもらう。

4. フロア発言（パネラーの間でやりとりも）